

ARCserve HA構築・運用のツボ ～ 3つのポイント

1 最適な切り替え方法を選択すべし！

2 切り替えにかかる時間を理解すべし！

3 スイッチオーバー後の切り戻し手順を理解すべし！

2 切り替えにかかる時間を理解すべし！

切り替えに必要な時間要素

自動

手動 (ワンクリック)

① サーバの生存確認 (ping監視)

② サービスの停止を確認

③ タイムアウト

④ サービスを再起動

ボタンを押す

スイッチオーバーの実行

⑤ マスタの非アクティブ化

⑥ レプリカのアクティブ化

ユーザのアクセス開始

サービス停止の検知時間

- レプリカサーバがマスタサーバの異常を検知する時間
デフォルト: 30秒に1回を1セットとし、300秒間実施。
1回も成功しなければ、異常と判断する

非アクティブ化にかかる時間

- マスタサーバの共有の無効化/サービス停止時間
- ネットワークの切り替え時間
 - ・ IPの移動、DNSの変更、コンピュータ名の変更時間
 - ・ 再起動にかかる時間

アクティブ化にかかる時間

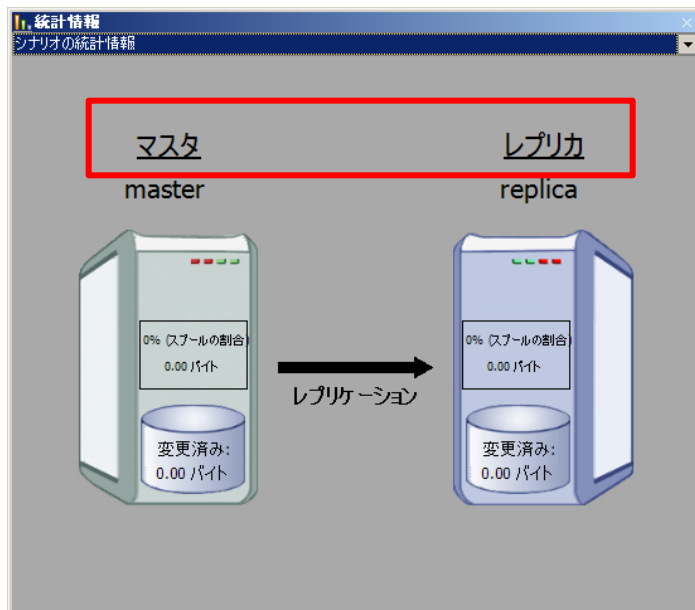
- ネットワークの切り替え時間
- レプリカサーバの共有の有効化/サービス起動時間

キャッシュ生存時間

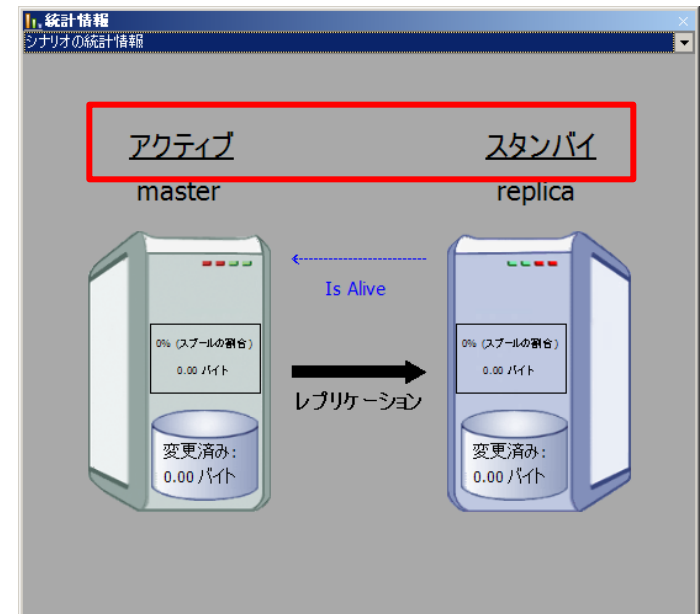
- NetBIOS、DNS、ARPキャッシュの生存時間

<参考> アクティブ/スタンバイとは

現状稼動しているサーバを「**アクティブ**」、待機系となっているサーバを「**スタンバイ**」と呼びます。HAシナリオではどちらが稼動しているかの情報まで保持しています。



レプリケーション シナリオの場合



HA シナリオの場合

2 切り替えにかかる時間を理解すべし！

切り替えに必要な時間要素

自動

手動 (ワンクリック)

① サーバの生存確認 (ping監視)

② サービスの停止を確認

③ タイムアウト

④ サービスを再起動

ボタンを押す

スイッチオーバーの実行

⑤ マスタの非アクティブ化

⑥ レプリカのアクティブ化

ユーザのアクセス開始

サービス停止の検知時間

- レプリカサーバがマスタサーバの異常を検知する時間
デフォルト：30秒に1回を1セットとし、300秒間実施。
1回も成功しなければ、異常と判断する

非アクティブ化にかかる時間

- マスタサーバの共有の無効化/サービス停止時間
- ネットワークの切り替え時間
 - ・ IPの移動、DNSの変更、コンピュータ名の変更時間
 - ・ 再起動にかかる時間

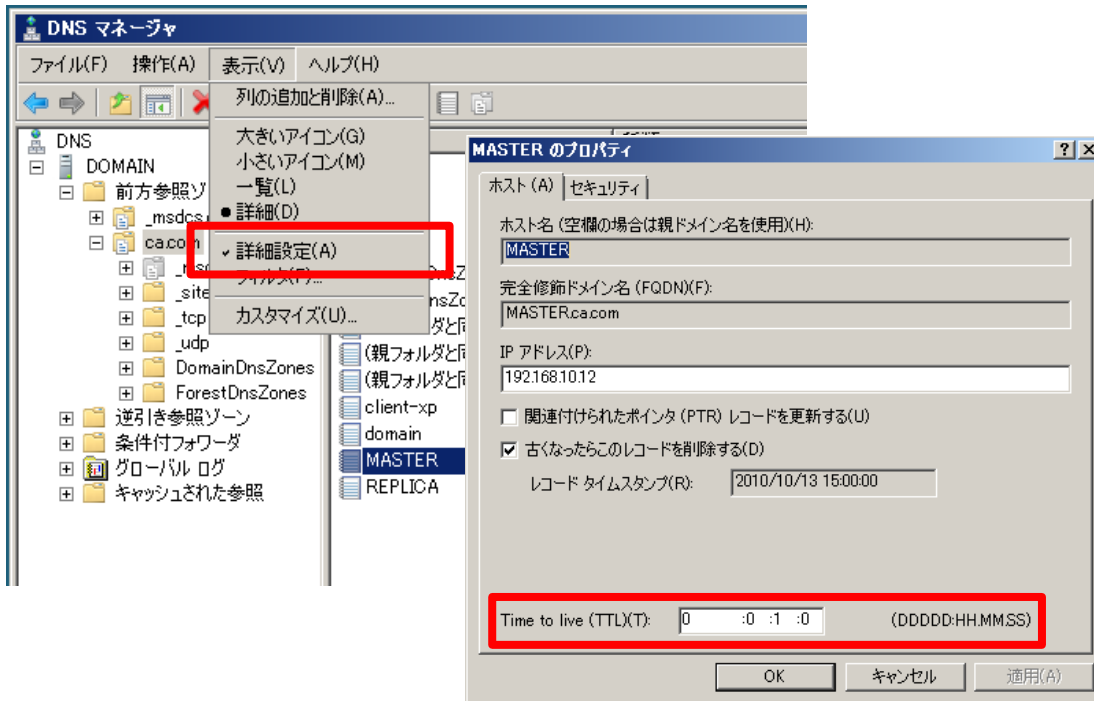
アクティブ化にかかる時間

- ネットワークの切り替え時間
- レプリカサーバの共有の有効化/サービス起動時間

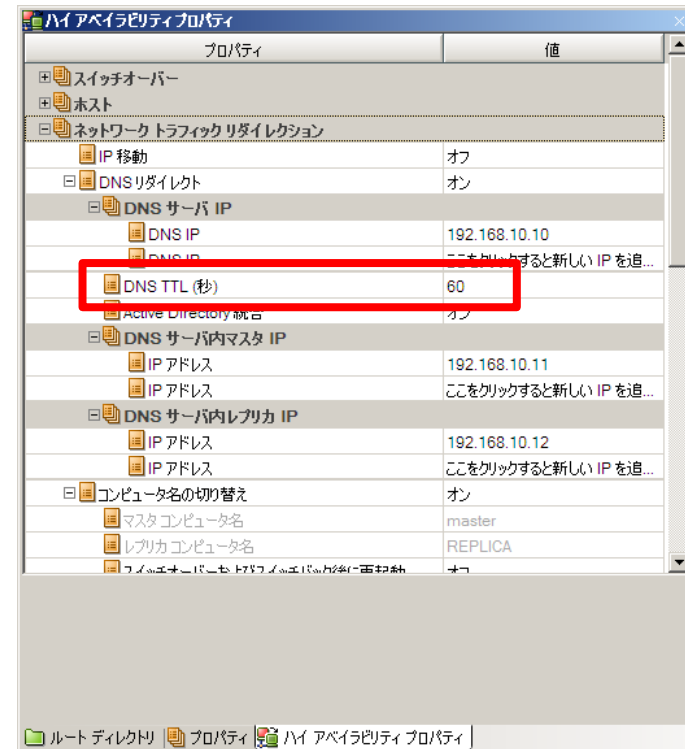
キャッシュ生存時間

- NetBIOS、DNS、ARPキャッシュの生存時間

<参考> DNS キャッシュの生存時間について



RHA マネージャ画面 スイッチオーバープロパティ内



デフォルトではマスタレコードのDNS キャッシュ生存期間 (Time to live: TTL) を1分 (60秒) に変更します。

※レプリカのレコードのキャッシュのTTLは変更されません

<参考> クライアントOSのキャッシュのクリア

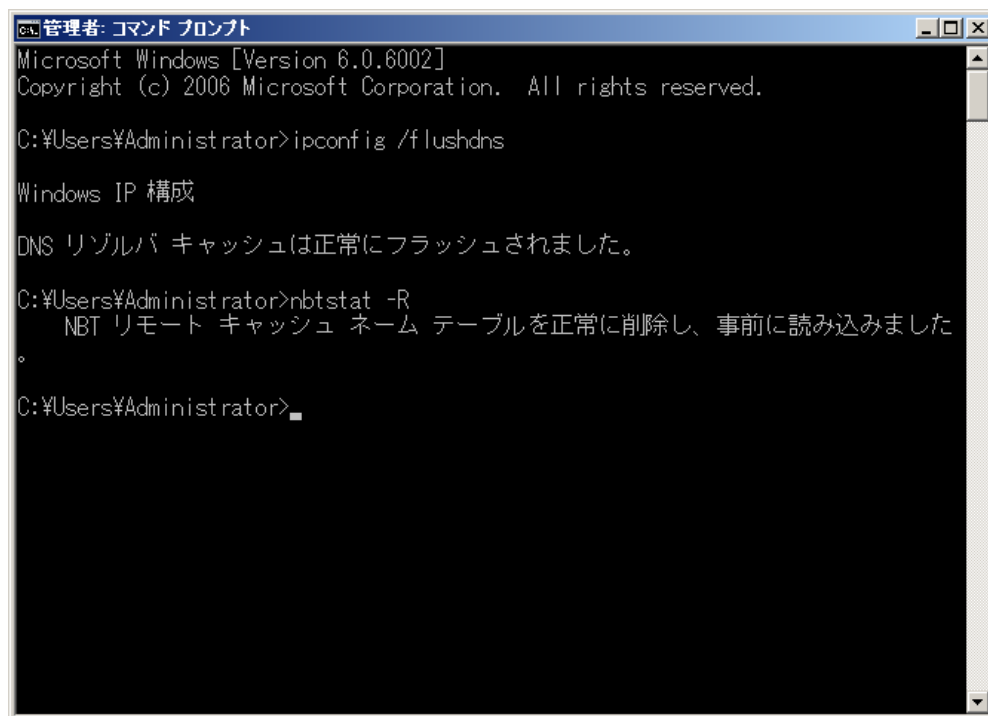
クライアントOSにキャッシュが残っている場合、すぐにアクセスができないことがあります。その場合には以下のコマンドを実行します

>ipconfig /flushdns

DNSのキャッシュをクリアします

>nbtstat -R

NetBIOSのキャッシュをクリアします



```
管理: コマンド プロンプト
Microsoft Windows [Version 6.0.6002]
Copyright (c) 2006 Microsoft Corporation. All rights reserved.

C:\Users\Administrator>ipconfig /flushdns

Windows IP 構成

DNS リゾルバ キャッシュは正常にフラッシュされました。

C:\Users\Administrator>nbtstat -R
  NBT リモート キャッシュ ネーム テーブルを正常に削除し、事前に読み込みました。
。

C:\Users\Administrator>
```